

和気町教育委員会

- 【開催年月日】 令和6年4月18日（木）
【召集の場所】 佐伯庁舎 町民室
午後1時55分開会
【出席者】 教育長 徳永 昭伸
委員 有正 省三（教育長職務代理者）
委員 國友 道一
委員 坪井 悠子
委員 安藤 知春
【事務局出席者】 新田教育次長・嶋村学校教育課長・森元社会教育課長
【付議した議案】
（1）議案第22号、和気町公営塾運営事業に関する要綱の制定について
（2）議案第23号、和気町高校版の公営塾事業に関する要綱の制定について
【その他】
（1）令和6年度和気町教育委員会開催日程等について
（2）令和6年度幼児・児童・生徒数について
（3）議会3月定例会について
（4）佐伯地域小中学校の今後のあり方について

審議の記録(要約)

開会時刻 午後1時55分開会

議事録署名委員の氏名 有正教育長職務代理者、國友委員を指名した。

【諸般の報告】

徳永教育長 3月29日以降の諸般の報告を行った。

【議事】

森元社会教育課長 議案第22号、和気町公営塾運営事業に関する要綱の制定について議案書により説明した。

（質疑）

森元社会教育課長 文言について少し修正をする。
承認

森元社会教育課長 議案第23号、和気町高校版の公営塾事業に関する要綱の制定について議案書により説明した。

（質疑）

有正職務代理者 表現の仕方について見直しをしてはどうか。
森元社会教育課長 文言について見直しをし整える。
承認

その他

新田教育次長 令和6年度和気町教育委員会開催日程等について、資料により説明した。
（質疑・意見） 特になし。

嶋村学校教育課長

令和6年度、幼児・児童・生徒数について、資料により説明した。

区域外就学、私立学校通学者がいるため、住民票の人数と町内学校の在籍数が少し異なっている。現在、507名の児童が和気町の小学校に通っている（昨年度、同時期は527名だった）。中学生は257名（昨年度同時期は263名）が和気町内の学校に通っている。佐伯小学校の4年生と5年生はよると複式学級で行う事になっているが、今年度は県の加配を受けて単学年で行っている。和気小学校の30のところは30人いるので、小1グッドスタートという支援員を配置している。県の基準でいうと30人以上で配置できることになっている。和気町の場合は、小1は31人で2クラスになるので、30人の時のみこの支援員が配置されることになる。和気小学校の6年生は県の基準でいうと1クラスになるが、和気町の基準で2クラスにしている。本荘小学校は1年生を町の基準で2クラスにしている。

（質疑・意見）

特になし。

新田教育次長

議会の3月の定例会について資料により報告した。

（質疑・意見）

國友委員

イエナプランとは何か？

嶋村学校教育課長

イエナプランとは、いくつか要件があるが、異年齢で学ぶということ、探究的に学ぶということ、自由進度で学ぶということ。それが全てではないが、大きな柱にして進められている教育。特例校のような形で認定を受けないといけない。公立校で唯一行われているのが、福山市にある学校で、認定校として行っている。

イエナプランを導入してから児童数が倍増しており、そのような教育を求める人たちには人気がある。企業の後押しがあったり、通いやすい地域だということなど色々な背景があり児童数が増えることにつながっている。その他に公立で広がらないのは要件を満たすのが難しいということ、中学校を見据えたときに進路保障が難しくなってくるということがある。

このイエナプランに関わらず、他の新しい教育の在り方は当然研究していかなければならないという話はしている。

坪井委員

福山市の学校では、具体的に、子どもたちにどのような教育を行っているのか。

嶋村学校教育課長

時間割の1事例として、朝は読書から始まり、サークルタイマー（異年齢でのディスカッション）、ブロックアワー（課題を見つけて追及する時間）、休憩があり、体育や音楽、給食、掃除、ワールドオリエンテーション（探究の学習。色々な種類があり、自分で課題を設定して自分で進めていく自由進度の学習と、グループで追及していく学習）というのがある。このように、先ほど説明した柱が時間割の中に組み込まれている。

徳永教育長

学年の枠がなく、そういう教育課程を組んでいかなければいけない。教員の入れ替わりもあるので、公教育の中でやるのはなかなか難しい。新しい教育の考え方は色々あるので、良いところは取り入れていきたいが。縦割り学習、縦割り活動を以前から公教育でもやっているが、そういう点の良いところを、異年齢集団を取り入れた活動ということをやっている。

坪井委員

佐伯地域では、団体で活動をしよと思ったら異年齢でやらないと関わらないとできないから、結局は自然にやっていることになる、と思って見ていた。

徳永教育長

イエナプランでは、勉強を異年齢でやっていくということ。そうすると、教育課程が違うのでなかなか難しいということ。複式学級になればそれに近いことにはなるが。学校教育を変えていくだけのメリットがあるのかどうかというところは判断しなければいけない。

徳永教育長
(質疑・意見)
國友委員

佐伯地域小中学校の今後のあり方について資料により説明した。

単独でいく場合と義務教育学校にする場合のメリットとデメリットについて、議論していく中でどこまで皆さんが理解できるのか、ということだと思う。その辺りを説明する必要があるように思う。義務教育学校をスタートしているところはあるが、9年間終えている学校はないので、具体的な議論がしにくいところはあると思うが。

徳永教育長

佐伯については今年から、小中学校が連携してできる具体的な取り組みを始めている。検討委員会を立ち上げたら委員の皆さんに活動の姿を見て検討の参考にさせていただけるように思う。

國友委員

自分の経験より、連携型よりも義務教育学校にする方が良いと思っている。小・中が同じ歩調で教育に取り組んでいく形にしていくのがよいと思っている。

有正職務代理

A案、B案、C案というのは、適正規模論だけで話し合っているのだと思う。教育の中身、教育課程の編成、教育の方法といったあたりを、義務教育の枠で議論していかなければならない。その場合、教育内容がどう変わるのかというあたりをもう少し整理した方が良さだろう。

和気町の人口の変遷の表を見ると、和気校区も統廃合に関する議論が必要になる時も近いように思う。佐伯の義務教育学校をモデルにして和気の義務教育学校も議論する時代が来ることが見通せる。そうなってくると、学校の自主的な選択性も出てくるだろうと思う。

これらの視点をもう少し整理して提案した方が議論が深まると思う。個人的には、義務教育学校しか選択肢はないと思っている。

國友委員

和気小学校と佐伯小学校の入学式と卒業式に出席したが、佐伯の来賓の学校に対する思いを強く感じた。佐伯から学校がなくなるとするのは大変なことのように思う。

坪井委員

佐伯の子たちは、同年代の子と関わる機会が少ないということを保護者は懸念している。高校に入ってから、たくさんの同年代の知らない人たちと出会うことになる。

徳永教育長

修学旅行などの宿泊行事では、両校とも同じ所へ行っているのだから、日にちを合わせて一緒に行くのはどうかという提案を両校長にしているところ。

國友委員

先日、視察に行った時に、ただ義務教育学校を作るのではなく、地域作りから学校作りをやっていくということを言っていた。それは大事なことのように思う。

徳永教育長

今年から、佐伯地域では小中で一緒にコミュニティスクールを作り始めている。地域の方が一緒に学校を作ることが始まっている。
今後の報告は、教育委員会の中で行っていく。

閉会時刻 午後4時27分

議事録署名

教育長職務代理者

有正 省三

委

員

國友 道一

教 育 次 長

新田 憲